

武家政治の始まり

学習1 武士のおこりと武士団

- 10世紀ごろから各地の豪族の中から、武芸を身につけ、朝廷や貴族の護衛をする者が現れ、武士とよばれるようになりました。
- 力のある武士を中心に武士団というまとまりがつけられました。天皇の子孫を棟梁とする源氏と平氏は有力な武士団でした。

学習2 院政と平氏政権

- 藤原氏と血縁関係のうすい後三条天皇が即位すると、摂関政治の力が弱まりました。白河天皇は11世紀末に退位して上皇となっても、政治の実権をにぎり続けました。この政治を院政といいます。
- 12世紀半ばすぎの京都に、2つの戦乱があいついで起こりました。

note 2つの戦乱

- ・保元の乱…天皇と上皇の対立や近臣の対立により起こる。後白河天皇が平清盛、源義朝を味方につけ、兄の崇徳上皇に勝利した。
- ・平治の乱…清盛と義朝が戦い、清盛が勝利する。

- 平清盛は武士として初めて、太政大臣になりました。

note 平清盛の政治

- ・日宋貿易…大輪田泊(現在の神戸港)の港や航路を整備した。
- ・朝廷との関係…娘を天皇のきさきにして権力を強めた。

- 清盛が後白河上皇と対立すると、上皇の皇子が平氏の討伐をよびかけました。源頼朝らが挙兵し、源平の争乱が始まりました。
- 1185年に、源義経が壇ノ浦(山口県)で平氏をほろぼしました。

学習3 武家政治の成立と展開

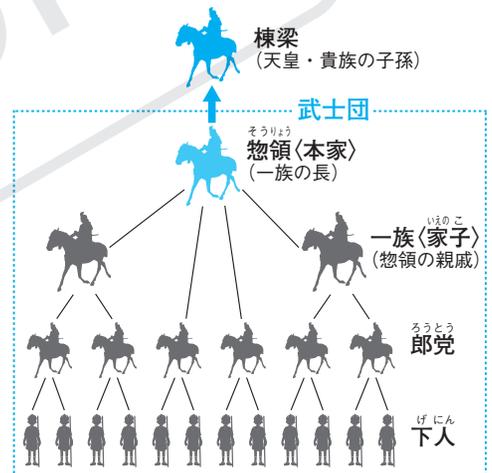
- 平氏の滅亡後、頼朝の勢力を恐れた後白河上皇が義経に官位を与えたことから、頼朝と義経の対立が深まりました。義経が挙兵すると、上皇も頼朝討伐を命じました。
- 頼朝は軍を送って上皇にせまり、義経を捕らえることを名目に、部下である御家人を、各地の守護や地頭として置くことを認めさせました。また頼朝は、岩手県平泉に拠点を置き、東北地方で勢力をふるい、中尊寺金色堂を建立した奥州藤原氏が、義経をかくまったとして、ほろぼしました。

note 守護と地頭

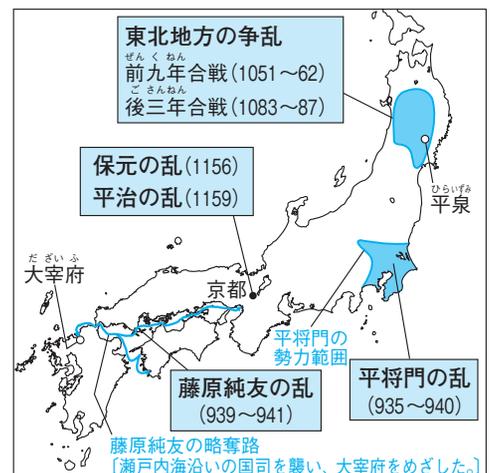
- ・守護…国ごとに置かれ、国の軍事・警備にあたる。
- ・地頭…荘園・公領ごとに置かれ、年貢の取り立てをした。

時代	年	できごと	中国
平安時代	935	関東で平将門の乱	五代
	939	瀬戸内海で藤原純友の乱	
	1051	前九年合戦が起こる	宋
	1083	後三年合戦が起こる	
	1086	白河法皇が院政を始める	
	1156	保元の乱が起こる	
	1159	平治の乱が起こる	
	1167	平清盛が太政大臣になる	
	1180	伊豆で源頼朝が挙兵する	
	1185	壇ノ浦の戦いで平氏がほろびる	
鎌倉時代		源頼朝が守護・地頭を設置	元
	1192	源頼朝が征夷大将軍になる	
	1219	源実朝が殺される	
	1221	承久の乱がおこる	
	1232	北条泰時が御成敗式目を制定	

▼武士団のしくみ



▼各地の争乱



□頼朝は1192年に朝廷から**征夷大将軍**に任命されました。頼朝は鎌倉に拠点を築いたので、これを**鎌倉幕府**といい、幕府が鎌倉に置かれた約150年間を鎌倉時代といいます。

□将軍と御家人は**御恩**と**奉公**の関係によって結ばれました。

note 御恩と奉公

- ・御恩…将軍が領地を保護したりあたえたりすること。
- ・奉公…京都や鎌倉の警備や、命がけの戦いをする事。

□土地を仲立ちとして主従関係を結ぶしくみを**封建制度**といいます。

□頼朝の死後、幕府の実権は頼朝の妻の北条政子と、その父の北条時政が握りました。**北条氏**は、将軍を補佐する**執権**という地位について政治を行いました(**執権政治**)。

□1221年、後鳥羽上皇は朝廷の権力を回復するために挙兵しました。しかし、上皇は幕府軍に敗れ、**隠岐**(島根県)に流されました。これを**承久の乱**といいます。この乱ののち、幕府は朝廷を監視するために京都に**六波羅探題**を置きました。

□承久の乱で上皇側に味方した武士の土地を取り上げ、御家人に分け与えたことで、幕府の力は西日本にまでおよびました。

□1232年に、執権の北条泰時は、武士の慣習に基づいて**御成敗式目**(貞永式目)をまとめました。

学習4 文化・宗教・生活

□農作業では牛や馬が利用されるようになり、米と麦の**二毛作**が行われるようになりました。

□寺社の門前などでは**定期市**が開かれ、市では**宋銭**が使われました。交通の要地には荷物の運送などを行う**問丸**が発達しました。

□武士が活躍したことは文化にも**影響**を及ぼしました。東大寺の南大門に置かれた、**運慶**や**快慶**らによって彫られた**金剛力士像**には力強い武士の気質が表現されています。

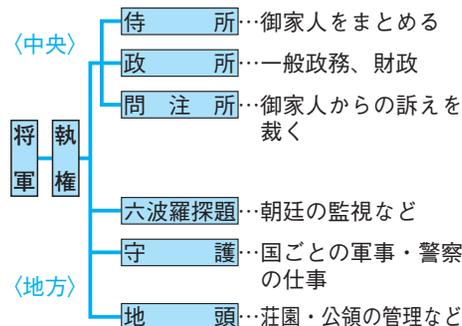
note 鎌倉時代の文学

- ・軍記物…『**平家物語**』は琵琶法師によって語られ、平氏の**繁栄**と**没落**が書かれている。
- ・随筆…『**徒然草**』は**吉田兼好**、『**方丈記**』は**鴨長明**。
- ・和歌集…『**新古今和歌集**』は**藤原定家**が編集。

□戦乱が多く、社会不安が広がっていたため、人々の心の支えとして、新たな**仏教**が広まりました。法然は**浄土宗**、親鸞は**浄土真宗**(一向宗)、一遍は**時宗**、日蓮は**日蓮宗**(法華宗)を開きました。

□**栄西**や**道元**は宋から**禅宗**を学び、**栄西**は臨済宗、**道元**は曹洞宗を伝えました。

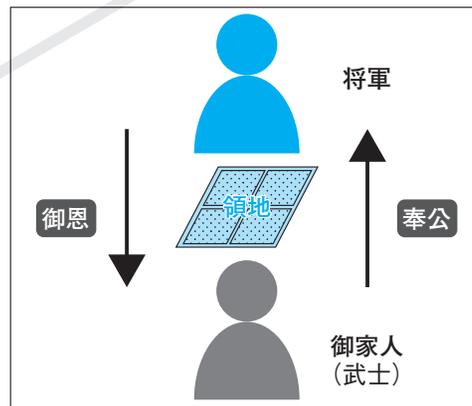
▼鎌倉幕府のしくみ



▼中尊寺金色堂

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

▼封建制度



▼御成敗式目(貞永式目) (一部要約)

- 一 諸国の守護の仕事は、御家人の京都を守る義務を指揮・催促すること、謀反や殺人などの犯罪人の取りしまりである。(第3条)
- 一 地頭は荘園の年貢をさしおさえてはいけない。(第5条)
- 一 20年以上継続してその土地を支配していれば、その者の所有になる。(第8条)

確認問題

●一問一答● 次の問いに答えなさい。

学習1

□(1) 武士の棟梁として、多くの武士団を支配した勢力は、平氏ともう1つは何氏か。(1)

□(2) 白河天皇が上皇となったのちも、院とよばれる御所で行った政治を何と
いうか。上皇やその住まいのことを院とよんだ。(2)

学習2

□(3) 武士としてはじめて太政大臣となり、貴族にかわって政権を握った人物
はだれか。保元の乱、平治の乱で対立勢力を一掃し武家政権を打ち立てた。(3)

□(4) 征夷大將軍となり、鎌倉に幕府を開いた人物はだれか。
平治の乱ののち、伊豆に流されていた。北条時政の助けを得て挙兵した。(4)

□(5) 壇ノ浦で平氏をほろぼした(4)の弟はだれか。
後白河上皇に重用されて(4)の怒りをかい、奥州藤原氏のもとに逃げた。(5)

□(6) 国ごとに置かれ、軍事・警察の仕事にあたった役職を何と
いうか。(5)を捕らえる口実で設置された。(6)

□(7) 公領や荘園におかれ、年貢の取り立て、土地の管理、治安の維持にあた
った役職を何と
いうか。(7)

□(8) (4)の挙兵後、(4)と主従関係を結んだ武士を何と
いうか。(8)

学習3

□(9) 將軍は(8)に役職を与え、先祖から引き継いだ領地を保護したり、新たな
土地を与えたりした。このことを何と
いうか。(9)

□(10) (8)たちが將軍に対して忠誠をちかい、「いざ鎌倉」というときに一族を率
いて戦いに参加することを何と
いうか。(10)

□(11) 土地を仲立ちとして主従関係を結ぶしくみを何と
いうか。鎌倉幕府が武士たちに十分な土地などを与えられなくなったので行き詰まった。(11)

□(12) (4)の死後、鎌倉幕府の実権を握り、執権の地位に就いたのは何氏か。
代々伊豆に住んでいた。(4)の死後、有力な(8)を倒していった。(12)

□(13) (4)の死後、鎌倉幕府の実権をにぎった(12)の政治を何と
いうか。(12)は(4)の妻政子の実家。(13)

□(14) 後鳥羽上皇が、幕府をたおそうとして兵をあげたが、幕府の大軍に敗れ
隠岐に流された。この乱を何と
いうか。(14)

□(15) 1232年、北条泰時が裁判の基準を示すための法律をつくった。この法律
を何と
いうか。のちに室町幕府や戦国大名による武家法の手本となった。(15)

□(16) 寺社の門前や交通の要地で、毎月決められた日に開かれる市を何と
いうか。四日市、五日市などの地名が現在も残っている。(16)

□(17) 鎌倉時代に琵琶法師によって広められた軍記物語は何か。(17)

学習4

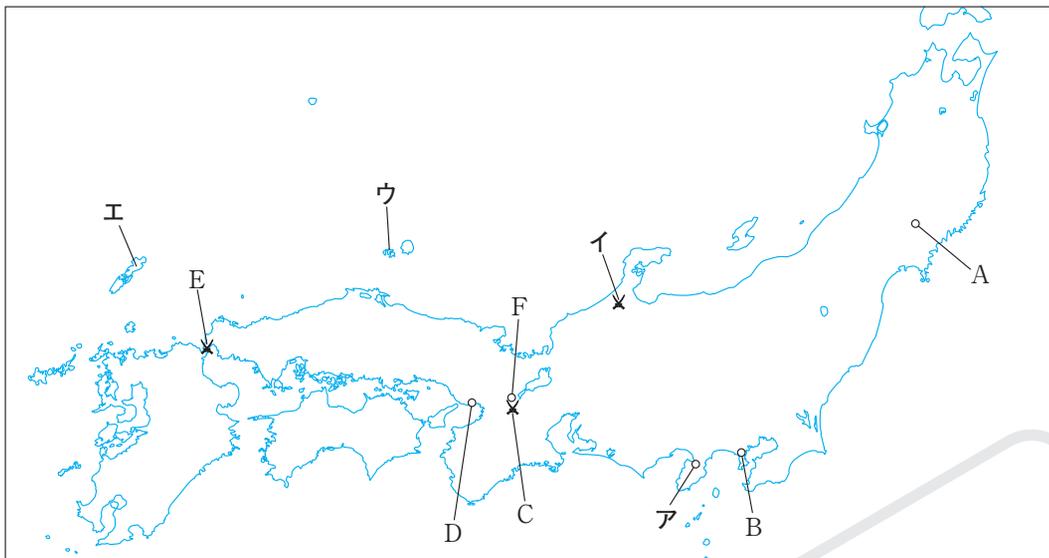
□(18) 「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば救われると、法然が説いた宗教を何と
いうか。京都市にある知恩院が総本山。(18)

□(19) 「阿弥陀仏を信じて自分の罪を自覚した悪人こそが救われる」と親鸞が説
いた仏教の宗派を何と
いうか。(19)

□(20) 宋から伝わった仏教の宗派で、座禅によって自分でさとりを開くことを
目的とする宗派を何と
いうか。栄西は臨済宗、道元は曹洞宗を開いた。(20)

基本問題

1 次の地図を見て、あとの問いに答えなさい。



(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	①
	②
(7)	①
	②

- (1) Aを拠点にして権力をふるい、中尊寺金色堂を建立した豪族の名を答えなさい。
- (2) 幕府が置かれたBの地名を答えなさい。
- (3) Cの場所で起こった平治の乱で、平清盛に敗れた人物はだれか。次のア～ウから選びなさい。
ア 源義朝 イ 平将門 ウ 後鳥羽上皇
- (4) Dは、平清盛が整備した大輪田泊があった場所である。この港で清盛が貿易を行った中国の王朝名を答えなさい。
- (5) Eは、平氏が滅亡した場所である。この地名を答えなさい。
- (6) Fには、承久の乱後に置かれた幕府の役所がある。次の問いに答えなさい。
 - ① その役所名を書きなさい。
 - ② その役所の仕事を、次のア～ウから選びなさい。
ア 朝廷の監視と西日本の武士の統制
イ 年貢の取り立て
ウ 荷物の運送
- (7) 次の①・②の場所を、地図中のア～エからそれぞれ選びなさい。
 - ① 平治の乱で源頼朝が流された場所
 - ② 承久の乱で後鳥羽上皇が流された場所

2 右の資料を読んで、次の問いに答えなさい。

- (1) 資料の①にあてはまる人物の名を書きなさい。
- (2) 資料の②にあてはまる語句で、将軍と主従関係を結んだ御家人が都の警備につとめ、戦いに命がけであたったことを何というか。
- (3) 資料の言葉を話した(1)の人物の妻はだれか。

さあ侍ども、たしかに聞け。日本国の侍は、昔は3年のあいだ京都の守りにつくことを一生のだいじと思い、一族・郎党まで晴れやかに出発したが、3年の京生活に力つき、国に下るときははだしでやっと帰ってきた。それを(①)殿があわれに思われて、3年を半年に縮めてくださったので、みな喜んだものだ。この御恩を忘れて、このたび京方につくか、将軍に(②)するか、今ははっきり言いきってみよ。

(1)	
(2)	
(3)	

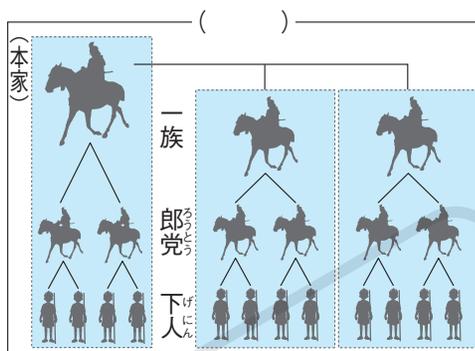
練習問題

1 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

10世紀に入ると、貴族や寺社、地方の豪族は私有地(荘園)を広げていった。11世紀半ば過ぎになると、国司の税の取り立てからのがれるために、藤原氏などの貴族や大寺社に所有者になってもらい、持ち主自らは荘官となって、私有地を支配していった。そして、所有する土地を守るために、武芸を身につけ、戦いを職業とする武士が育ってきた。

(1) 下線部について、次の問いに答えなさい。

□① 武士は地方で、右の図のようなまとまりをつくっていた。図の()にあてはまる、このようなまとまりを何というか。



□② 天皇や貴族の子孫で右の図の集団のかしらを何とよぶか。

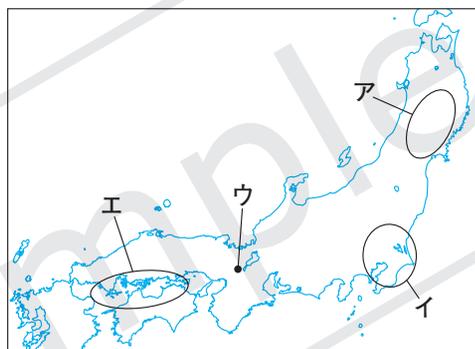
□③ 右の図の集団の中で、天皇の子孫といわれるのは源氏と何氏か。

□(2) 次のア～ウから平安時代の武士について述べた文としてあてはまるものを選びなさい。

ア 都の貴族に仕えて、護衛にあたった。

イ 国司に任命されて地方を治めた。

ウ 租・調・庸がかけられた。



□(3) 次のA、Bの乱が発生した地域を、右の地図中のア～エから選びなさい。

A 平将門の乱 B 藤原純友の乱

2 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

11世紀中ごろ、藤原氏と血縁関係がうすい後三条天皇が位に就くと、天皇に政治の実権を取りもどそうとした。そして、次の白河天皇は、^a位を皇子にゆずって、(①)となったのちも政治を行った。12世紀半ばになると、天皇家や藤原氏の争いなどが起こった。^b保元の乱では(②)や(③)を味方につけた後白河上皇が勝利した。こうしたことから武士は武力で争いを解決し、地位を高めていった。

□(1) 文中の①にあてはまる語句は何か。

□(2) 文中の②・③にあてはまる人物を次のア～エから選びなさい。

ア 平清盛 イ 源義朝 ウ 後三条天皇 エ 白河天皇

□(3) 下線部^aの政治を何というか。

□(4) 下線部^bの3年後、後白河上皇の政権内で起こった対立を何というか。

(5) (4)の戦いに勝ち、太政大臣となった人物について、次の問いに答えなさい。

□ⓧ この人物が大輪田泊を整備して行った貿易を何というか。

□Ⓨ **表現力** この人物は、どのような方法で政治の実権を握るようになったか。「娘」と「天皇」という語句を使って説明しなさい。

1

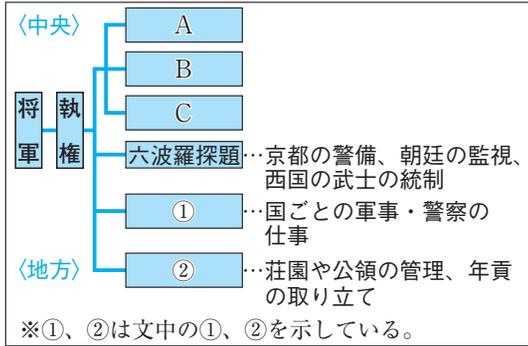
	①	
(1)	②	
	③	
(2)		
(3)	A	
	B	

2

(1)		
	②	
(2)	③	
(3)		
(4)		の乱
	ⓧ	貿易
(5)	Ⓨ	

③ 次の文を読み、右の図を見て、あとの問いに答えなさい。

源平の内乱の間、鎌倉で指揮をとっていた源頼朝は、武家政治のための実際的で簡素なしくみを整えて、朝廷にせまり(①)・(②)を置くことを認めさせた。その後、頼朝は、征夷大将軍に任じられ、鎌倉に初の武家政権を成立させた。頼朝は、^a御家人に^b新しい領地を与え、そのかわりに将軍のために働くことを誓わせた。



- (1) 文中と図中の①・②にあてはまる語句は何か。
 (2) 図中のA～Cにあてはまる語句を、次の文をふまえて答えなさい。
 A 御家人の統率、軍事と警察の仕事をした。
 B 一般の政務や財政の仕事をした。
 C 訴訟や裁判の仕事をした。

- (3) **表現力** 下線部^aはどのような人々か。簡潔に説明しなさい。
 □(4) 下線部^bについて、奉公に対して、将軍が御家人に先祖伝来の土地を保障したり、新しい領地を与えたりすることを何というか。

(1)	①	
	②	
(2)	A	
	B	
	C	
(3)		
(4)		

④ 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

頼朝の死後、幕府の実権は(①)という地位についた北条氏の手に移った。この後、源氏の将軍が絶えると、これを政権奪回の好機とみた^a(②)上皇は、1221年、北条氏を討つ命令を全国に下したが、幕府の大軍の前に敗れた。また、1232年、北条泰時が、武士の社会の慣習にもとづいて、御家人に対してつくった裁判の基準を示すための法律は、その後、長く武士の政治のよりどころとなった。

- (1) 文中の①にあてはまる語句は何か。
 □(2) 文中の②にあてはまる語句は何か。
 □(3) 下線部^aのあと、朝廷の監視のために、京都に置かれた役所を、次のア～エから選びなさい。
 ア 問注所 イ 六波羅探題 ウ 守護 エ 大宰府

(1)	
(2)	
(3)	

⑤ 鎌倉時代の文化や宗教、生活について、次の問いに答えなさい。

- (1) 右の資料は、鎌倉時代に人々に親しまれた作品の冒頭である。この作品の名を書きなさい。
 □(2) 各地をまわって、右の資料の作品を武士や民衆に広めた人のことを何というか。
 □(3) 戦乱や天災、貴族の没落などから世のはかなさを書いた随筆『方丈記』の作者の名を書きなさい。
 □(4) 藤原定家らが編集した和歌集の名を書きなさい。

祇園精舎の鐘の聲、
 諸行無常の響きあり。
 沙羅双樹の花の色、
 盛者必衰のことわりをあらわす。
 おごれる人も久しからず、
 ただ春の夜の夢のごとし。
 たけき者もついにはほろびぬ、
 ひとえに風の前の塵に同じ。

(1)	
(2)	法師
(3)	
(4)	